

## 【大山町人権・同和教育に関する意識・実態調査の結果について】

### （調査の概要）

- 調査対象 町民（15歳以上、無作為抽出）
- 抽出数 3,000人
- 調査方法 郵送配布・郵送回収（後納郵便）
- 調査期間 令和2年11月
- 設問内容 約30問、細かな問題は自由記述
- その他 意識調査に実態調査を一部加えた
- 集計と分析については、鳥取大学で実施
- 回答数 1,144件（回答率38.1%）

### 調査のポイント

- 町民一人ひとりの人権が保障される町づくりを推進し、大山町人権施策総合計画や様々な人権施策に活用するために実施
- 集計・分析（集計・分析・まとめは、すべて鳥取大学）

### 【主な調査結果の概要】

#### 【所得について】

所得階層相対的貧困率が全国平均より高い。

#### 【充実感について】

年代と充実感 50代から60代の充実感が少ない。男性の20代、30代、40代の充実感が低いことが問題。

#### 【小地域懇談会について】

40代以下の7割の参加がない。

小地域懇談会と人権に対する考え方：小地域懇談会に参加した回数が多いほど高いことがわかる。

#### 【進学について】

所得が少ないほど進学をあきらめた割合が高い。40年以上前と比べると少なくなっただものの、奨学金制度など公的支援が重要

#### 【差別を見聞きしたことがありますか】

職場での差別・いじめが最も多く、続いて部落問題にかかわる差別、障がい者への差別となり、身の回りの人権問題が顕著に表れている。